

守山企業景況調査報告書

(第37回)

平成30年10月～平成30年12月期 実績

平成31年1月～平成31年3月期 見通し

守山企業景況調査について

(平成 30 年 10 月～平成 30 年 12 月期)

1. 調査方法

守山商工会議所会員企業 69 社に対し調査票を配布し、回答を依頼した。記入済み調査票は商工会議所へ持参、郵送、Fax 等により回収した。

2. 調査企業

産業別	調査対象企業数	有効回答企業数	回収率
小売業	20	16	80.0%
製造業	13	12	92.3%
建設業	12	11	91.7%
サービス業	19	16	84.2%
卸売業	5	4	80.0%
合計	69	59	85.5%

3. 調査期間

調査期間は、実績を平成 30 年 10 月～平成 30 年 12 月、見通しを平成 31 年 1 月～平成 31 年 3 月とし、調査時点は平成 31 年 1 月 31 日とした。

4. 調査データについて

調査の結果を示す指標として DI 指数を採用した。DI 指数とは DIffusion Index (景気動向指数) の略で、各調査項目について、「増加」・「好転」したなどとする企業割合から「減少」・「悪化」したなどとする企業割合を差引いた数値である。

「業況」、「売上」、「採算(経常利益)」、「従業員」の DI 指数は前年同期との比較である。

「資金繰り」、「資金の借入れ難易度」の DI 指数は 3 カ月前との比較である。

「取引の問い合わせ」、「採算(経常利益)の水準」の DI 指数は過去との比較ではなく、調査時点での水準を聞いたものである。

調査の概要

平成30年10月～12月期の守山企業景況調査の結果は、以下の通りである。調査結果はDI指数（景気動向指数）を用いて示している。

DIは、「増加」「好転」等の企業割合から「減少」「悪化」等の企業割合を差引いた数値である。そのため、DIが±0の状態であれば、「増加」「好転」等の企業割合と「減少」「悪化」等の企業割合が同じであることを示し、プラスの数値であれば「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも多いことを示す。逆にDIがマイナスの数値であれば、「増加」「好転」等の企業割合が「減少」「悪化」等の企業割合よりも少ないことになる。

また、グラフは右肩上がりになれば良い方向に向っていると判断でき、右肩下がりになれば良くない方向に進んでいると考えられる。

平成30年10月～12月期の調査結果では、業況、採算、資金繰りの3指標の数値が上昇した。

<業況>

業況DIは▲13.6で前回調査の▲15.8から2.2ポイント上昇した。業種別では、小売業▲37.5（前回調査比▲18.8）、製造業16.7（前回調査比+7.6）、建設業▲36.4（前回調査比+3.6）、サービス業▲6.3（前回調査比+18.7）、卸売業25.0（前回調査比±0）と製造業、建設業、サービス業で上昇した。

1月～3月期見通しは全体で▲14.0であり、わずかに数値は低下している。

<売上高>

売上高DIは▲3.4で前回調査の1.8から5.2ポイント低下した。業種別では、小売業▲37.5（前回調査比▲43.8）、製造業41.7（前回調査比+23.5）、建設業▲36.4（前回調査比▲16.4）、サービス業0.0（前回調査比+6.3）、卸売業75.0（前回調査比+50.0）であり、小売業、建設業が低下した。

1月～3月期見通しは全体で▲15.3となっており、低下が見込まれている。

<採算（経常利益）>

採算（経常利益）DIは▲10.3で前回調査の▲22.8より12.5ポイント上昇した。業種別では、小売業▲25.0（前回調査比▲6.2）、製造業18.2（前回調査比+36.4）、建設業▲45.5（前回調査比+4.5）、サービス業▲6.3（前回調査比+18.7）、卸売業50.0（前回調査比+25.0）で小売業以外の業種で上昇した。

1月～3月期見通しは全体で▲15.5であり低下の見通しである。

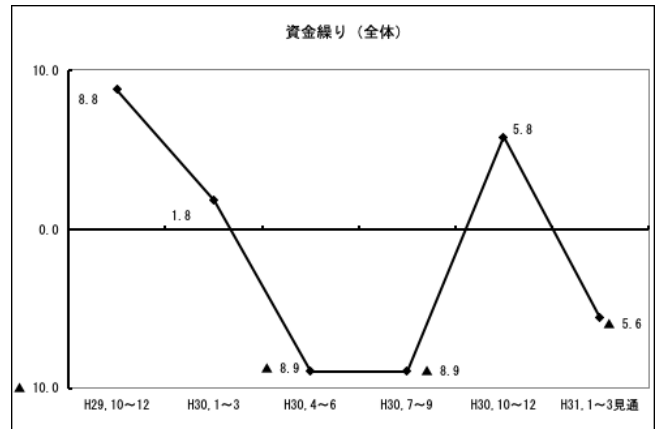
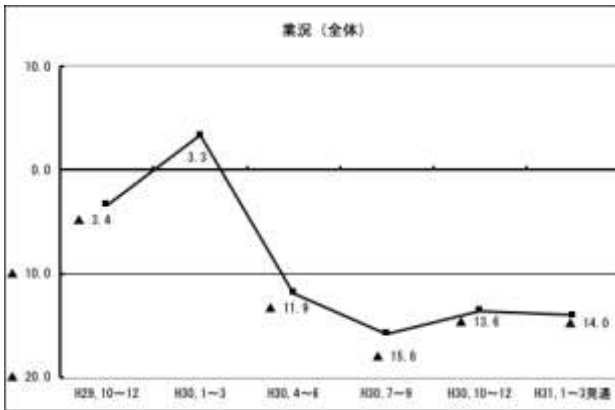
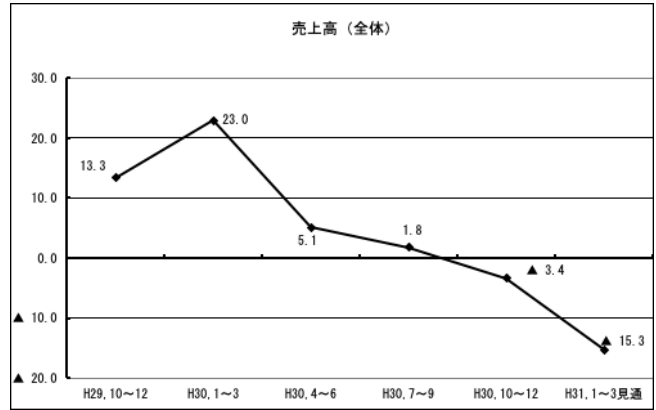
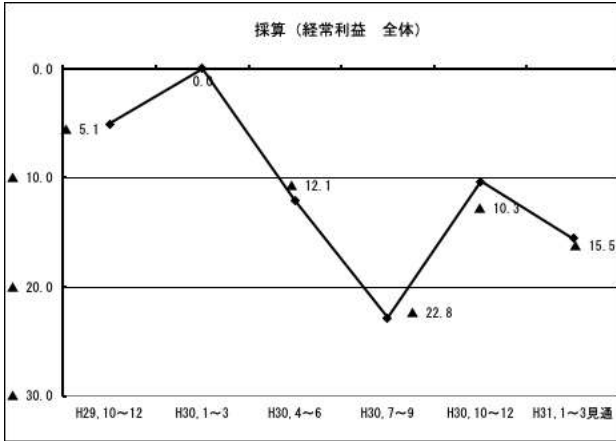
<資金繰り>

資金繰りDIは5.8で前回調査の▲8.9から14.7ポイント上昇した。業種別では小売業▲6.7（前回調査比▲0.4）、製造業0.0（前回調査比±0.0）、建設業18.2（前回調査比+48.2）、サービス業8.3（前回調査比+14.6）、卸売業25.0（前回調査比+25.0）であった。

1月～3月期見通しは全体で▲5.6であり、今回調査実績から低下している。

<その他の意見>

- ・ 消費税 up、外国人増加、技術革新などにより従前の常識が常識でなくなっていく感じがする。
- ・ 仕事はあるが人手不足



小売業

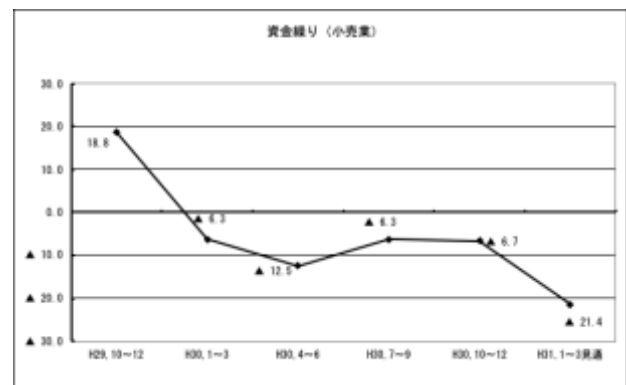
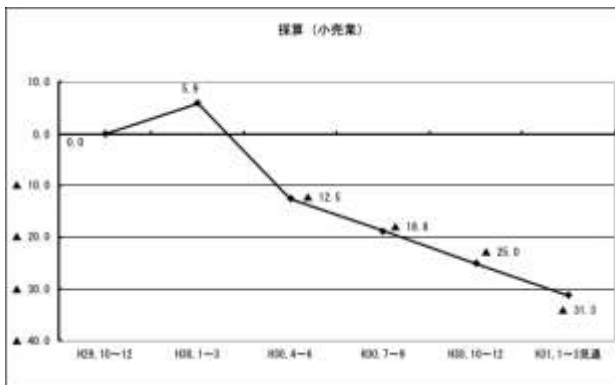
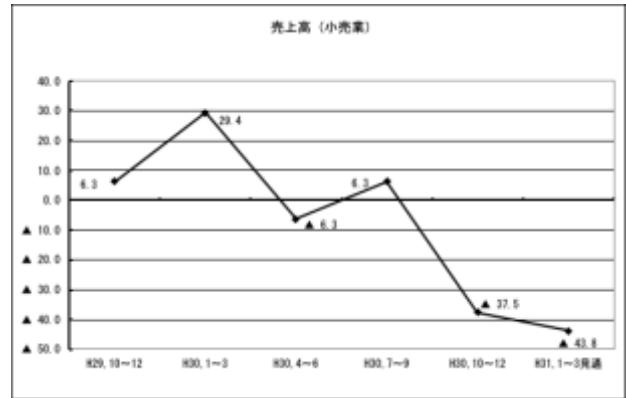
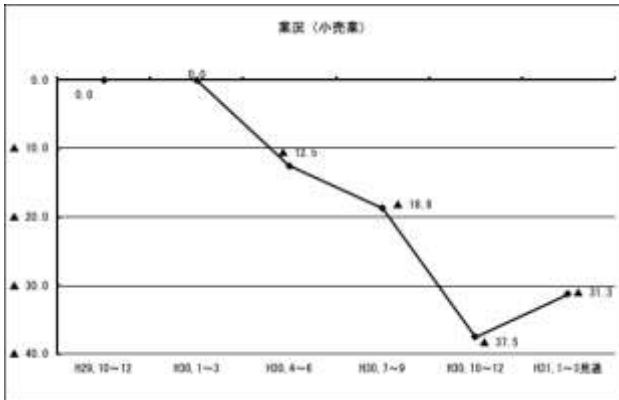
小売業の業況DIは▲37.5で前回調査に比べて18.7ポイント低下した。これで3四半期連続の低下である。平成29年10月～12月期は0.0であったので1年間で37.5ポイント下ったことになる。1月～3月期見通しは▲31.3と少し持ち直すと予想されている。

売上高DIは▲37.5で前回調査より43.8ポイント低下した。売上高DIが▲30を下回ったのは平成28年7月～9月期の▲42.1以来である。1月～3月期見通しでは▲43.8となっており、一段と厳しくなる見込み出ある。

採算DIは▲25.0で前回調査より6.2ポイント低下した。業況と同じく3四半期連続で低下している。採算はじわじわと低下しており、採算DIがマイナス続きだった平成29年ごろの水準まで下ってきている。1月～3月期見通しはさらに低下の予想になっている。

資金繰りDIは▲6.7で前回調査より0.4ポイント低下した。平成30年1月から12月まで資金繰りはマイナスままであった。1月～3月期見通しは▲21.4と資金繰りはかなり厳しい予想になっている。

なお、今回調査時点で30.8%の事業所が人手不足だと感じており、過剰は7.7%であった。



製造業

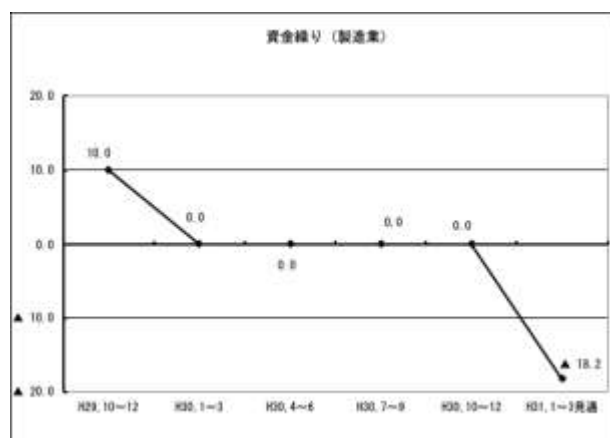
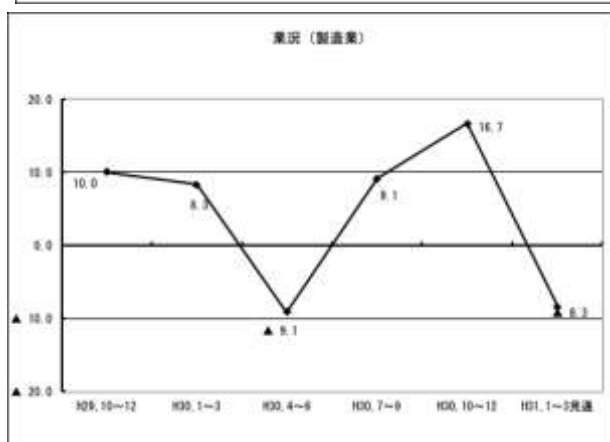
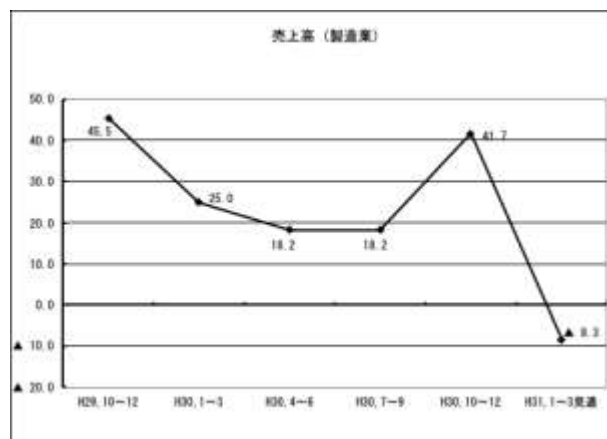
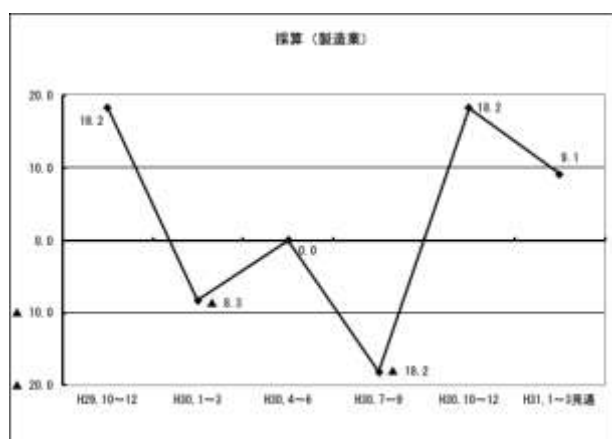
製造業の業況DIは16.7と前回調査に比べて7.6ポイント上昇した。平成30年4月～6月期が▲9.1であったがそれ以外は過去1年間プラスの数値が続いており製造業の業況は継続して良いようである。しかし、1月～3月期見通しは▲8.3となっており、先行きには慎重な見方が出ている。

売上高DIは41.7で前回調査と較べて23.5ポイント上昇した。売上高DIは過去1年間プラス続きで、1年前の平成29年10月～12月期が45.5であり今回調査はそれに匹敵する数値である。しかし、1月～3月期は▲8.3とかなりの落込みが予想されている。

採算DIは18.2で前回調査より36.4ポイント上昇した。平成29年10月～12月期が18.2で今回調査と同じ水準であったがそれ以来4四半期ぶりのプラス数値である。1月～3月期見通しは9.1と今回調査よりも数値は下がるがプラス予想である。

資金繰りDIは0.0で前回調査と同じであった。資金繰りは安定した動きを見せている。1月～3月期見通しは▲18.2と大きく数値を下げており資金繰りにも慎重な見方が出ている。

なお、今回調査時点で58.3%の事業所が人手不足だと感じており、過剰は0%であった。



建設業

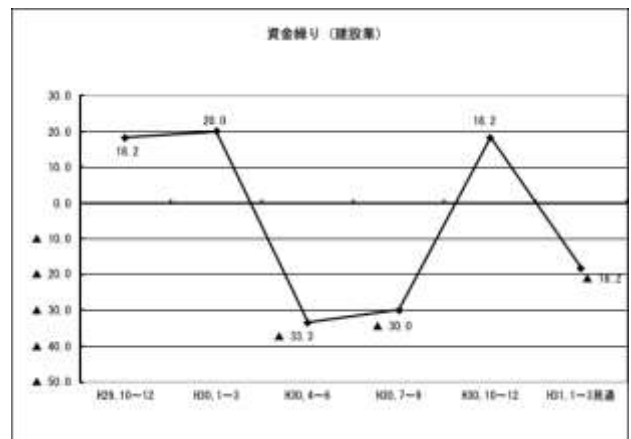
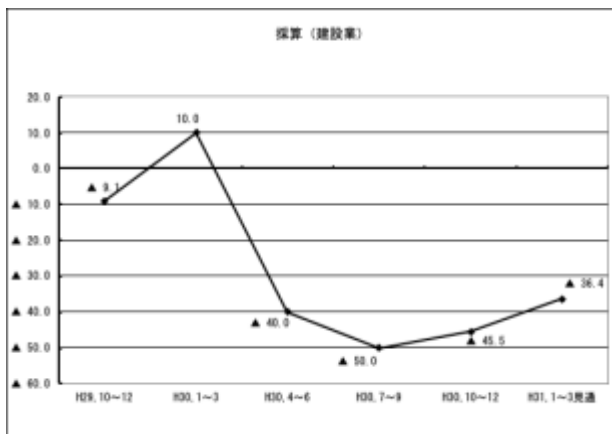
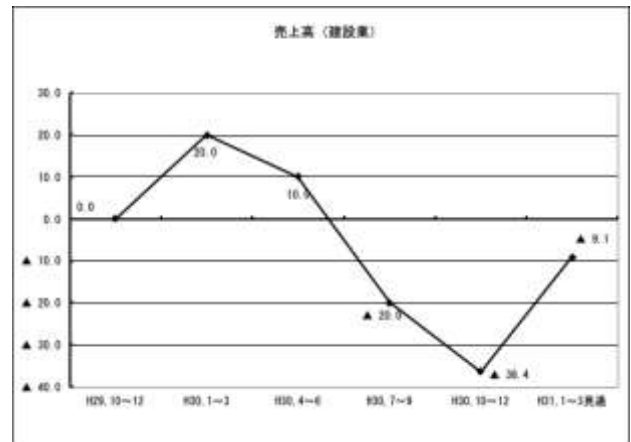
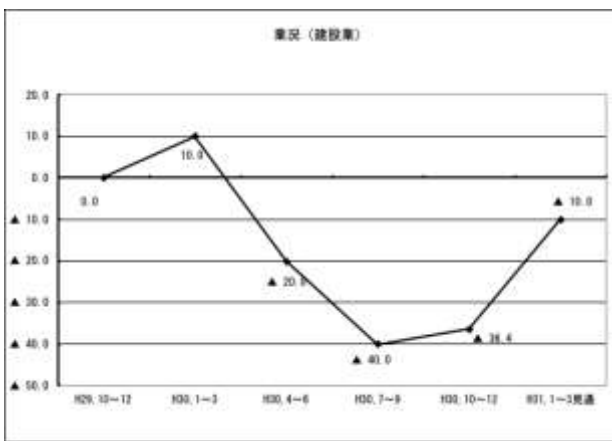
建設業の業況DIは▲36.4であり前回調査より3.6ポイント上昇した。前回、前々回と低下が続いたが今回は上昇に転じた。1月～3月期見通しでも▲10.0とさらに上昇がきたいされる結果になっている。

売上高DIは▲36.4で前回調査より16.4ポイント低下した。平成23年10月～12月期に▲40.0という数値があったがそれ以来7年ぶりの低い数値である。1月～3月期見通しは▲9.1でこの先は持ち直しそうである。

採算DIは▲45.5で前回調査より4.5ポイント上昇している。3四半期連続で▲40以下というかなり厳しい状態が続いている。1月～3月期見通しでも▲36.4とこの状態は変わらない見込みである。

資金繰りDIは18.2で前回調査より48.2ポイント上昇した。大幅な改善である。しかし、1月～3月期見通しは▲18.2なので資金繰りは安定を欠いているように見える。

なお、今回調査時点で70.0%の事業所が人手不足だと感じており、過剰は0%であった。



サービス業

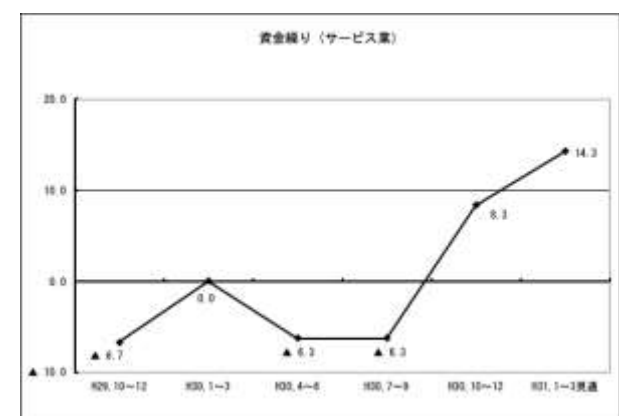
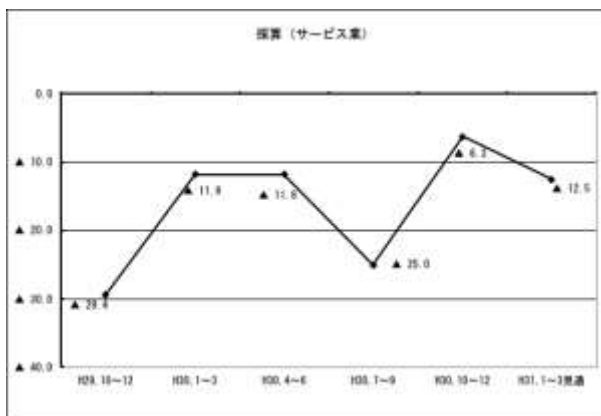
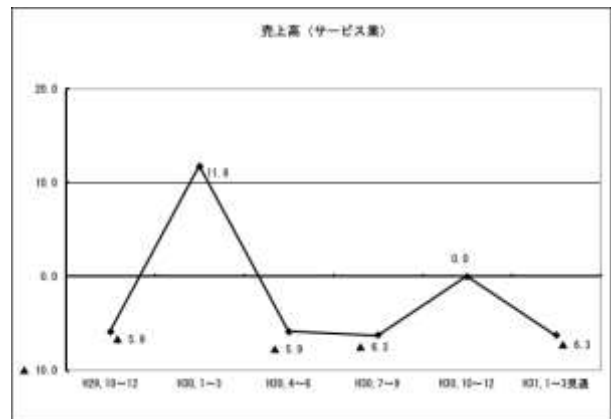
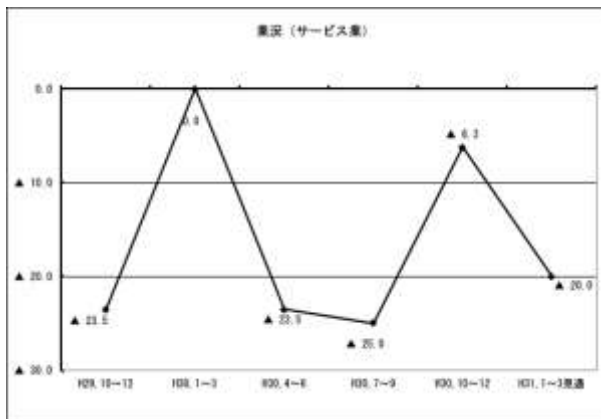
サービス業の業況DIは▲6.3で前回調査より18.7ポイント上昇した。3四半期振りの上昇である。しかし、1月～3月期は▲20.0と再び低下が予想されており、業況判断は好転していかないようである。

売上高DIは0.0で前回調査より6.3ポイント上昇した。業況と同じく3四半期振りの上昇である。1月～3月期見通しは▲6.3と前回調査並の数値に落ちていることから売上高の判断も好転していかないようである。

採算DIは▲6.3で前回調査より18.7ポイント上昇した。今回調査では採算も好転している。しかし、1月～3月期見通しは▲12.5と採算の判断も好転していかないようである。

資金繰りDIは8.3で前回調査より14.6ポイント上昇した。資金繰りも他の3指標と同じく今回調査で上昇したが、他との違いは1月～3月期見通しが14.3とさらに良くなる見込みであることである。

なお、今回調査時点で33.3%の事業所が人手不足だと感じており、過剰は6.7%であった。



卸売業

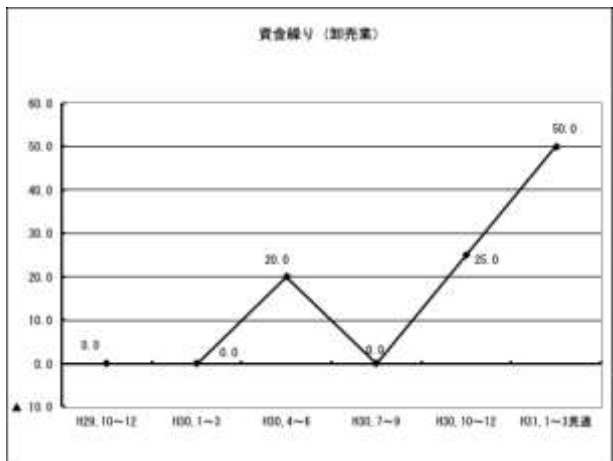
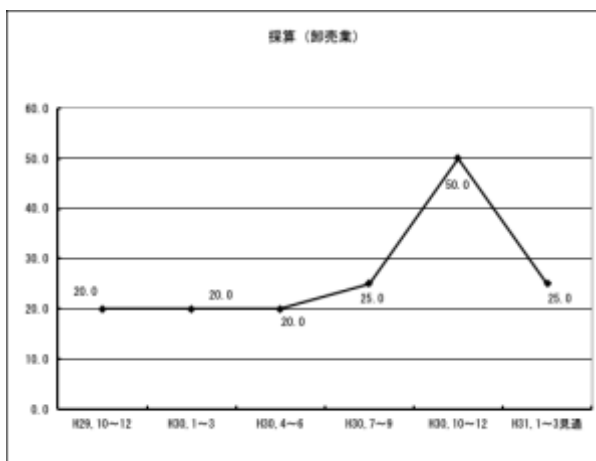
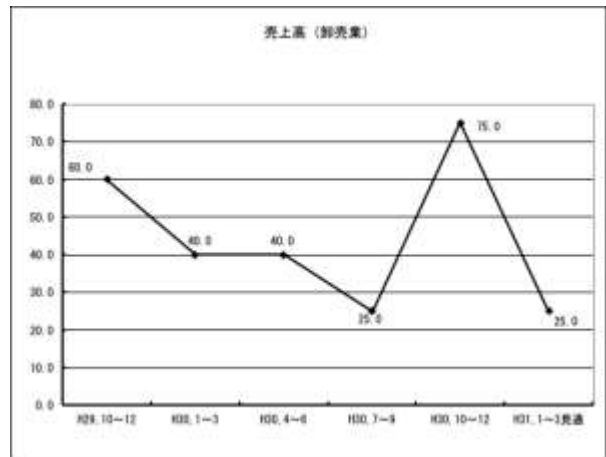
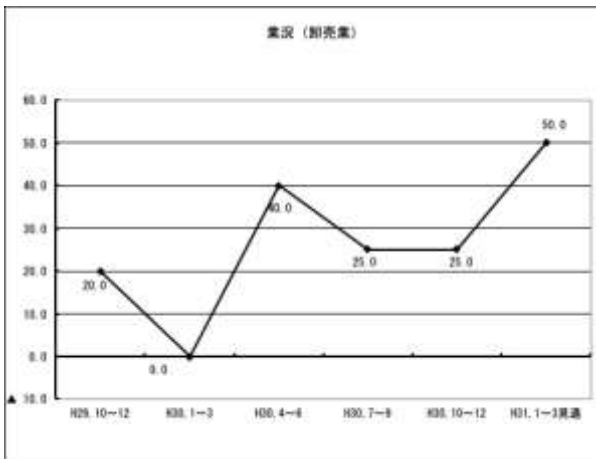
卸売業の業況DIは25.0となり前回調査と同じである。卸売業の業況は平成30年1月～3月期に0.0となった以外は過去1年間プラスの数値が続いており、業況は良いようである。1月～3月期見通しも50.0でこの調子は継続しそうな予想である。

売上高DIは75.0で前回調査に比べて50.0ポイント上昇した。29年10月～12月期に60.0になってから5四半期連続でプラスになっている。1月～3月期は25.0で好調は続きそうであるが少しトーンダウンしている。

採算DIは50.0で前回調査に比べて25ポイント低下した。採算も5四半期連続でプラス領域にあり、卸売業の好調はここにも現れている。1月～3月期見通しも25.0と同じ調子が続く見込みになっている。

DI資金繰りDIは20.0で前回調査より25.0ポイント上昇した。資金繰りもかなり安定しているようである。1月～3月期見通しも50.0と明るい予想になっている。

なお、今回調査時点で50.0%の事業所が人手不足だと感じており、過剰は0%であった



DI 指数一覧表

	昨年の同期との比較					
	業況		売上高		採算（経常利益）	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	▲ 13.6	▲ 14.0	▲ 3.4	▲ 15.3	▲ 10.3	▲ 15.5
小売業	▲ 37.5	▲ 31.3	▲ 37.5	▲ 43.8	▲ 25.0	▲ 31.3
製造業	16.7	▲ 8.3	41.7	▲ 8.3	18.2	9.1
建設業	▲ 36.4	▲ 10.0	▲ 36.4	▲ 9.1	▲ 45.5	▲ 36.4
サービス業	▲ 6.3	▲ 20.0	0.0	▲ 6.3	▲ 6.3	▲ 12.5
卸売業	25.0	50.0	75.0	25.0	50.0	25.0

	該当期について				昨年の同期との比較	
	採算（経常利益）水準		取引の問い合わせ		従業員	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	17.2	10.5	0.0	▲ 18.2	▲ 5.3	▲ 7.1
小売業	▲ 12.5	▲ 12.5	▲ 14.3	▲ 14.3	▲ 21.4	▲ 28.6
製造業	58.3	18.2	16.7	▲ 18.2	8.3	16.7
建設業	0.0	9.1	▲ 9.1	▲ 18.2	▲ 9.1	0.0
サービス業	6.7	6.7	▲ 14.3	▲ 20.0	0.0	▲ 13.3
卸売業	100.0	100.0	75.0	75.0	0.0	0.0

	3 カ月前との比較					
	資金繰り		長期借入れ難易度		短期借入れ難易度	
	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し	10～12 月期 動向	1～3 月期見 通し
全 体	5.8	▲ 5.6	2.2	0.0	4.5	4.4
小売業	▲ 6.7	▲ 21.4	0.0	0.0	10.0	10.0
製造業	0.0	▲ 18.2	0.0	0.0	0.0	0.0
建設業	18.2	▲ 18.2	▲ 10.0	▲ 10.0	0.0	0.0
サービス業	8.3	14.3	9.1	0.0	0.0	0.0
卸売業	25.0	50.0	33.3	25.0	33.3	0.0

過去からの動向

